

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成20年6月解析分)

## 1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成20年5月分(平成20年4月28日～6月1日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	127	0.22	1.07	↓	10	百日咳	167	0.46	0.01	↑
2	RSウイルス感染症	15	0.04	-	↓	11	ヘルパンギーナ	78	0.22	0.38	↑
3	咽頭結膜熱	261	0.73	0.53	↗	12	流行性耳下腺炎	64	0.18	0.97	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	794	2.21	1.44	↗	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,971	5.48	5.81	↘	14	流行性角結膜炎	111	1.17	1.22	↗
6	水痘	723	2.01	2.00	↗	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	366	1.02	0.71	↑	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.05	
8	伝染性紅斑	90	0.25	0.28	↗	17	マイコプラズマ肺炎	51	0.49	0.21	↗
9	突発性発しん	239	0.66	0.60	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成20年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	55	2.39	2.10	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	112	5.33	4.81	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.91	0.76	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33	1.57	2.36	↗
21	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.63	↑	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.36	
22	淋菌感染症	33	1.43	0.72	↗						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 手足口病 (176件 366件)  
 急増疾患 百日咳 (60件 167件)  
 急増疾患 ヘルパンギーナ (17件 78件)  
 急増疾患 尖圭コンジローマ (8件 19件)  
 急減疾患 インフルエンザ (558件 127件)  
 急減疾患 RSウイルス感染症 (34件 15件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	60	結核〔広島市保健所(17)、福山市保健所(10)、呉市保健所(8)、広島地域保健所(4)、芸北地域保健所(3)、東広島地域保健所(3)、尾三地域保健所(13)、福山地域保健所(1)備北地域保健所(1)〕
三類	7	腸管出血性大腸菌感染症(O157)(5)、〔広島市保健所(2)、福山市保健所(2)、備北地域保健所(1)(O26)(1)、〔福山市保健所〕、(O111)(1)、〔尾三地域保健所〕
四類	5	レジオネラ症(3)〔広島市保健所(2)、呉市保健所(1)〕、つつが虫病(1)〔広島地域保健所〕日本紅斑熱(1)、〔福山地域保健所〕
五類全数	17	後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所、福山市保健所〕、急性脳炎(1)〔広島市保健所〕、梅毒(2)〔広島市保健所、呉市保健所〕、風しん(1)〔広島市保健所〕、麻しん(11)〔広島市保健所(1)、呉市保健所(3)、福山市保健所(6)、東広島地域保健所(1)〕

## 3 一般情報

手足口病、ヘルパンギーナの患者数が4月と比較して急増しています。いずれも夏に流行する感染症で、これからさらに患者数が増加することが予想され、注意が必要です。

### (1) 手足口病について

手足口病は、口腔粘膜、手、足などの水疱性発疹を主症状とした、乳幼児を中心に夏季に流行する急性ウイルス性感染症です。

**病原体** コクサッキーウイルス・エンテロウイルス

**症状** 感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手、足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は軽く、通常高熱が続くことはありません。一般的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。

まれに重症化や合併症を伴う場合があります、特にエンテロウイルスに感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずることが比較的多いので注意が必要です。

**感染経路** 飛沫感染、接触感染、糞口感染で、主症状が回復した後も比較的長期間にわたって、便などからウイルスが排泄されることがありますが、基本的には軽症疾患なので、保育園や幼稚園などを休む必要はありません。

**予防方法** 手洗いの励行、排泄物の適正な処理

### (2) ヘルパンギーナについて

ヘルパンギーナは夏かぜの代表的な感染症です。7月をピークに6～8月に必ず流行します。1～4歳児に好発します。

**病原体** コクサッキーウイルス

**症状** 感染から2～4日の潜伏期間の後に、38～40度の発熱で発症し、同時に咽頭痛が現れます。熱は1～3日続き、食欲不振、不機嫌、全身倦怠感、頭痛、嘔吐などを伴うこともあります。一般的には、熱が下がれば2～3日で治癒する予後良好の感染症です。

**感染経路** 急性期には、咽頭からウイルスが排泄し、飛沫感染します。急性期から回復期には便にも排泄されるので、汚染された手や飲食物を介する糞口感染の2ルートがあります。

発症日前から数日間で最もウイルス量が多くなります。便には、4週間頃まで排泄が続きますが、ウイルス量は少なくなります。

**予防方法** 手洗いの励行、排泄物の適正な処理

### (3) 百日咳について

4月に引き続き、百日咳の患者数が増加しています。保健所別では広島市保健所、備北地域保健所管内(三次市、庄原市)で患者数が増加しています。

百日咳は、6ヶ月未満の乳児が感染すると、重症化しやすく、時には死に至る危険性がある疾患です。

成人では、咳が長く続きますが、乳幼児にみられるような特徴的な発作性の咳がないため、罹患に気付かないまま感染源となって周囲に感染を広げてしまうことがあります。

咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。